

葡萄の生育サイクル（北半球）



Debouremet

4月 発芽（萌芽）（仏：Débourémet）

葡萄の樹が休眠期から目覚め、気温が約 10℃に達すると、剪定した枝の先から雫となって滴ります。



Fueillaison

5月 展葉（仏：Fueillaison）

芽が梢（新梢）となり伸びる。蕾（仏：Montre）新梢の根本付近に蕾がつく。



Floraison

6月 開花（仏：Floraison）

葡萄の実の小さな形で、キャップと言われる花冠が落ちると同時に雄しべから花粉が放たれて受粉されます。※花振いに注意

・結実（仏：Nouaison）雄しべの根本に小さな緑の果実ができます。

・新梢の固定（仏：Accolage）新梢をワイヤーに固定する。

・夏期剪定（仏：Rognage）余分な葉と枝を落とす。

・摘房（仏：Vandange Verte）余分な房を落とす。

・除草（仏：Desherbage）雑草を取り除く。



Veraison

7～8月 色付き（着色期）（仏：Veraison）

黒葡萄の色が緑から青色に変わる。色付きから成熟まで 40 日。

8～9月 成熟（仏：Maturite）

果実の成熟が進み、酸と青臭さが減り甘味（糖）が増します。

9～10月 収穫（仏：Vendange）



Maturite

花振いとは（英：Coulture/仏：Coulture）

悪天候や不適切な栽培管理などにより受粉・結実がうまくいかず、果房につく果粒が極端に少なくなる葡萄の生理障害のひとつ。特に若い樹に見られることが多く、原因は窒素過多、強すぎる剪定、開花結実時の気温が低かったり雨が多かったり、ホウ素が欠乏することが主な原因と考えられています。

